

次期県立高校改革推進プラン (骨子案)

I 計画の基本的な考え方

1 計画策定に当たって

(1) 計画の趣旨

令和2年2月に策定した、第3期千葉県教育振興基本計画「次世代へ光り輝く『教育立県ちば』プラン」に今後の魅力ある高等学校づくりの方向性を示したことなどを踏まえ、令和4年度以降の新たな計画を策定し、更なる高校改革を推進することとした。

(2) 計画の目標年次

令和4年度～令和13年度末

(3) 計画の性格

本計画は、今後10年間の県立高校改革に関する基本的な考え方を示すものであり、実施に当たっては、具体計画(実施プログラム)に基づき推進することを基本とする。ただし、計画期間中の評価等を踏まえ、必要に応じて見直す場合もある。

2 県立高等学校の現状と課題

(1) 生徒の多様なニーズへの対応 (98.9%の高校進学率)

生徒の多様なニーズに応える、幅広い選択肢や柔軟なシステムなどを備えた教育環境の整備が必要である。

(2) 自立した人材の育成 (キャリア教育・職業教育)

若者の勤労観・職業観の醸成に対応するため、キャリア教育・職業教育の一層の充実が必要である。

(3) 人口の減少 (都市部と郡部の生徒数等の差異)

10年後には中学校卒業生数が現在より大幅に減少する見込みである。減少割合は地域毎に大きく異なることから、それぞれの地域の特性を踏まえた対応が必要である。

3 基本的コンセプト (目指すべき県立高等学校像)

- (1) 予測困難な時代の中で、生徒が主役となり、未来を切り拓く力を育む学校
- (2) 各校の特色化を進め、生徒・教職員が生き生きと活動して、「自信」を育む学校
- (3) 一人一人の可能性を広げ、地域から世界まで様々な舞台上で活躍できる生徒を育てる学校
- (4) 身近な課題を探究するなど、地域との絆を深め、地域とともに発展する学校

4 改革の方向性

- (1) 学習意欲を喚起し、可能性や能力を最大限に伸長する学びへの転換
- (2) Society5.0に対応した新時代に求められる探究的な学びの推進
- (3) 普通科を含めた全生徒のキャリア教育と職業教育の充実
- (4) 共生社会の実現や多様な学習ニーズに対応した教育の推進
- (5) スクール・ポリシーに基づく各校の魅力化・特色化と効果的な学校運営の推進
- (6) 生徒が生き生きと学ぶことができる教育環境の整備
- (7) 地域や企業、教育機関等と連携・協働し、身近な課題解決を考える学びなどの充実
- (8) 地域の特性に配慮し、地域の振興に寄与する高校の在り方や適正配置の検討

II 魅力ある県立高校づくりの推進

| 区 分 | | 現行プランの成果（○）と課題（▲） | 次期プランの方向性□ |
|-----------------------|------------------|--|---|
| ★全ての高校の魅力化と 学びの改革 | | ○生徒・保護者、近隣中学校、外部団体からは、概ね一定の評価が得られた。 ▲現行プランでは、実施プログラムにおける対象が一部の学校にとどまった。人口減少や産業の担い手不足の深刻化など、社会の変化に対応した改革が今後必要である。また、高校が持つ魅力や特色を、中学生や保護者に積極的に広報する必要がある。 | |
| | | ⇒さらに 特色あるコース・学科等の導入 について検討するとともに、 戦略的な広報の推進 を図る。 | |
| 1 普通科及び普通系専門学科・コース | 普通科 | ○各校の現状に応じ、学科、コースの設置及び学びの導入を行った。 ▲多様な生徒が在籍し、各学校の魅力化・特色化を図る必要がある。 | ⇒ スクール・ポリシーを基点とし、各学校の魅力・特色を明確にする。 |
| | グローバルスクール 国際科 | ○「話す力」の育成や、国際的な広い視野を持った人材の育成につながっている。 ▲語学中心の学びだけでは生徒のニーズに合っていない。 | ⇒ 探究的な学びの推進とグローバル社会で活躍できる人材を育成する。 |
| | 理数科 | ○課題研究等の活動から、理数科目に関する興味・関心が高まった。 ▲郡部の理数科設置校では、生徒募集に苦慮している。 | ⇒ 理数科の活性化方策について検討する。 |
| | 体育科、芸術科 | ○体育科の配置についてはおおよそ適正である。 ▲芸術科については全県からの通学が困難である。 | ⇒ 教育内容の充実と、必要に応じて新たな設置について検討する。 |
| 2 職業系専門学科・コース | 農業科 | ○拠点校を中心として高等学校と関係機関とのネットワークを形成できた。 ▲各学校の特徴を生かした農業教育について、更に情報を共有していく必要がある。 | ⇒ アグリサポーターズちばの運営を活性化させ、情報を共有し、人材の育成を図る。 |
| | 工業科 | ○拠点校・コンソーシアムを設置し、関連機関との連携を推進した。 ▲中学生に対して効果的な広報活動が必要である。 | ⇒ 高等教育機関や地域産業界と連携し、技術系人材の育成を図る。 |
| | 商業科 | ○学科名を商業科・情報処理科に統一し、学びがわかりやすくなった。 ▲スペシャリスト育成に対応した教科指導・進路指導の充実が必要である。 | ⇒ 観光ビジネスの学びの導入や普通科への商業コースの設置について検討する。 |
| | 水産科 | ○地域や時代のニーズに合った水産教育を推進した。 ▲生徒募集に加え、設備の老朽化や指導者の確保が課題である。 | ⇒ 水産教育の魅力向上のための方策について検討する。 |
| | 福祉科 | ○拠点校とのネットワーク化によりコース設置校の質が向上した。 ▲コースの定員充足に苦慮している実態がある。 | ⇒ 小・中学校等との連携を強化し、福祉の仕事に対する魅力を伝え、理解を促進する。 |
| | 家庭科、看護科、 情報科 | ○情報科においては、社会のニーズもあり、志願倍率も高い。 看護科においては、学びが充実しており、志願倍率も高い。 ▲家庭科においては、一部、生徒募集に苦慮している実態がある。 | ⇒ 教育内容の充実と、必要に応じて新たな設置について検討する。 |

| 区 分 | | 現行プランの成果(○)と課題(▲) | 次期プランの方向性 <input type="checkbox"/> |
|--------------------------------|---------------|---|--|
| 3 総合学科 | | ○多様な進路ニーズに対応し、将来を見据えた学びを提供している。 ▲『産業社会と人間』のカリキュラムを確立し、進路指導に結びつける必要がある。 | ⇒STEAM 教育の導入や、定時制への新たな設置について検討する。 |
| 4 社会の ニーズに 対応した 教育 | 単位制高校 | ○選択科目や少人数教育の充実により能力・適性に応じた学習が実現できた。 ▲柔軟な教育課程の編成について更なる充実が必要である。 | ⇒教育課程の更なる充実や、必要に応じた新たな設置について検討する。 |
| | 中高一貫教育校 | ○6年間を通したカリキュラムにより独自の教育が実践されている。 ▲中学校・高校の交流を更に充実させる必要がある。 | ⇒既存校の教育内容について、引き続き検証していく。 |
| | 地域協働推進校 | ○地域のニーズを反映し、地域の特色を生かした教育活動ができた。 ▲高校において更なる設置が求められている。 | ⇒コミュニティ・スクールの機能を強化、充実させた地域協働推進校の指定を検討する。 |
| | 地域連携アクティブスクール | ○学校設定科目「学び直し」による満足度が高い。 ▲地域連携アクティブスクールの魅力を周知する必要がある。 | ⇒既設の4校に加え、ニーズや地域バランスに配慮し、新たな設置について検討する。 |

Ⅲ 県立高校の適正規模・適正配置

| 区 分 | | 現行プランの成果(○)と課題(▲) | 次期プランの方向性 <input type="checkbox"/> |
|------------|--|--|------------------------------------|
| 1 全日制高校の配置 | | ○3組7校を統合し、配置の適正化を進めた。 ▲今後も少子化が進むことから、都市部においても配置の検討が必要である。地域の状況によっては、これ以上の再編が難しい地域がある。 | ⇒少子化や地域の状況を踏まえた適正配置の考え方について検討する。 |
| 2 定時制高校の配置 | | ○多様な生活スタイルや学習ニーズに対応した学びを提供している。 ▲郡部における定時制の在り方について検討が必要である。 | ⇒学びの弾力化や魅力化、通信制高校との連携について検討する。 |
| 3 通信制高校の配置 | | ○千葉大宮高校において、館山総合高校との遠隔スクーリングを実施することにより、遠隔地の生徒の学習支援を図った。 ▲遠隔地のスクーリングには、補助教員やICT機器の確保が必要。 | ⇒定時制高校との学校間ネットワークの構築を更に推進する。 |